

僕と弟は今も逃げ続けている…

埼玉県志木市一が、自らの体験を一人芝居で演じ、全校生徒250人に薬物の怖さを訴えた。(片山夏子)

港区の南陽東中学校で、薬物乱用防止教室が開かれ、薬物を長年使用していた俳優内谷正文さん(39)＝

薬物依存経験 一人芝居

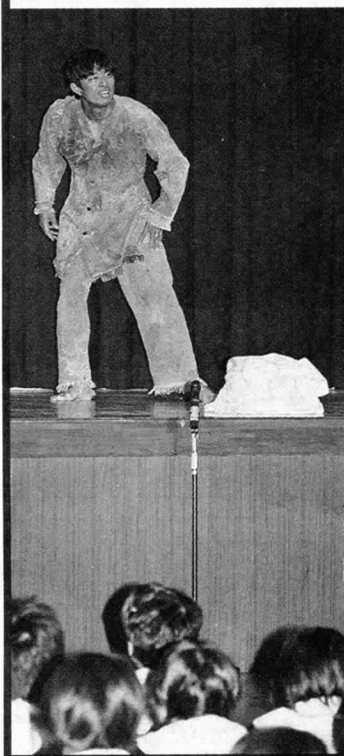
教室は名古屋みなとライオンズクラブの主催。内谷さんは十六歳の時に暴走族の仲間勧められ、シンナーを体験した。その後、マリファナや覚せい剤に手を出し、三十三歳まで薬物を使っていた。

芝居は自身の体験と、内谷さんにつられて薬物に染まった三歳下の弟がひどい依存症に陥った状態を再現

港区の南陽東中で乱用防止教室

現。幻覚や幻聴が続いて精神が崩壊していく様子や家族が壊れる過程を生々しく演じ、生徒たちは真剣に見入っていた。

内谷さんは「薬物は一度使つと、回復しても依存から完全に逃れることはできない。僕と弟は今も逃げ続けている。友達に誘われても断る勇気を持つてほしい」と呼び掛けた。



一人芝居で薬物の怖さを伝える内谷正文さん＝港区の南陽東中学校で